



ラ・フランスは、収穫したばかりでは固く、おいしそうに見えないかもしれませんが。しかし、熟すにつれてやわらかくなり、さわやかでしっかりとした甘みと豊かな香りを放ちます。美しさにおいても食文化においてもこだわりの強いフランス人が、祖国フランスの名前を付けたほどの果物です。
学生の皆さんが学びを深めていくのと同時に、その素質を磨き、可能性を大きく広げていけるようラ・フランスのビジュアルに願いを込めています。

 **東北学院大学**  共生社会経済学科  検索
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY [大学ホームページ] <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp>

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3-1
[入試課] TEL.022-264-6455(直) FAX.022-264-6377 E-mail.nyushi@staff.tohoku-gakuin.ac.jp



経済学で
現実を捉え、
現場から
共生社会を
構想する。

専門知と実践知の融合
共生社会経済学科

2022年度 学科ガイド



学びのポイント

「共生社会」をつくる ―共生社会経済学科の取り組み―

転換の時代に

私たちの社会には、性別、年齢、国籍、民族、出身地域、身体条件などが異なり、また価値観や利害関係も異なる、多様な人びとが生きています。そうした違いを超えて、人びとが互いを尊重し、誰もが幸福で豊かな人生を歩めるような社会。「共生社会」と私たちが呼ぶ、そんな社会をつくるためにはどうしたらよいのか、共生社会経済学科は問い続けてきました。

2009年、経済学を基礎にしてこの問いに取り組むための学科として、共生社会経済学科は産声をあげました。その時すでに、私たちの社会は、少子高齢化により労働や社会保障の仕組みを大きく見直さなければならない時期を迎えていました。同時に、グローバル化によって、人の交流とモノの流通はもはや一国単位では捉えることが難しくなりました。その後、状況は加速度的に進行し、持続可能かつ国境を越える普遍性をもった社会・経済システムの構想が、不可避な状況になったと言えるでしょう。私たちは今、間違いなく新たな社会制度を構築すべき歴史の転換点に立っているという実感を持つべきです。

多様な学びと現場の往復

そのためには、なによりもまず正しい知識をもとに、論理的な思考をめぐらすことができる学問的な力が必要です。共生社会経済学科では、経済学の基礎はもちろん、社会保障や社会福祉、グローバル経済や財政について、その仕組みをしっかりと学びます。

他方で、そうした学問的思考を「共生社会」の構想に繋げていくためには、自分とは異なる立場に置かれた人びとの人生に対する想像力が必要です。多様性の理解なくしては「共生」を考えることもできないからです。そのために私たちの学科では、さまざまな社会問題についても深く学びます。世代間や地域間の格差、マイノリティへの差別、そして2011年3月11日以降、東北の地が今なお抱える困難。こうした問題の考察を通して、現在とは異なった、より良いシステムを作るための想像力を養います。

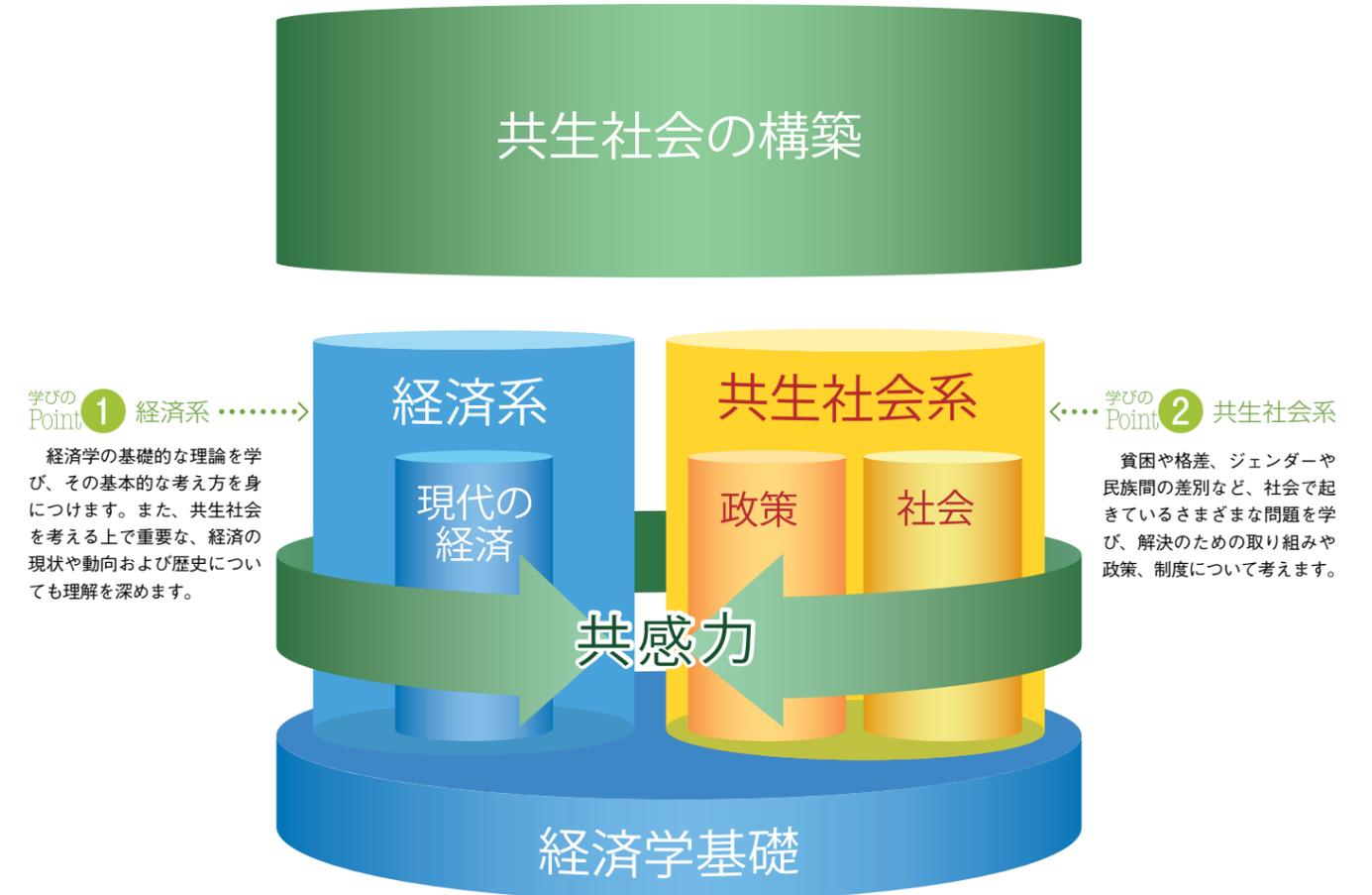
さらに、教室で学んだ知識を実際に社会生活の現場で活かし、同時に現場から考察すべき課題を教室へと持ち帰るために、フィールドワークや演習の授業、ボランティアなど、キャンパスの外で学ぶ機会もさまざまに用意されています。

ともに「共生社会」へ

本学科では、こうした学びを通して、多くの学生たちがまだ見ぬ「共生社会」の姿を思い描き、模索を続けてきました。それは決して易しくはなく、未だ道半ばではあります。しかし、それでも挑戦する価値のある課題であり、なにより自分自身の人生をより豊かなものにしてくれます。私たちはそう考え、これからも皆さんと共にその課題に取り組み続けたいと願ってやみません。

学科教員一同

共生社会経済学科では、経済学をベースに共生社会について学びます。社会に生きる人びとの多様性に対する理解を深め、共感する力＝「共感力」を磨き、教室での学びと現場での実践の双方から、共生社会について具体的に考えます。



充実した講義科目とともに、フィールドワーク(現場での調査や体験)なども取り入れた多彩な学びを用意しています。現実に即した課題発見・解決の力を身に付けることを目指します。

学びのPoint 3 小規模な学科の特徴を生かした教育

演習など少人数による科目はもちろん、講義科目でも同じ学科の仲間と多く接します。切磋琢磨し、支えあいながら、共に真摯に学ぶ環境で、大学生としての成長をより確かなものとして実感できるでしょう。

学びのPoint 4 入門科目から応用科目へと体系的に学習

専門教育科目の2つの軸となる「経済系」と「共生社会系」を、入門科目から応用科目へと体系的に積み重ねて学びます。現実の生活に即した問題を、経済学の視点にくわえて、さまざまな視点から考えられる力を身に付けます。



講義・ゼミ・現場と多彩に学ぶ 共生社会経済学科の4年間

共生社会経済学科では、経済学を身につけるための科目と、社会問題について考えるための科目の両方を、1年生のうちからしっかりと学びます。2年生からは演習科目とフィールドワーク科目による、より深い、また現場に根ざした学びが始まります。2016年度からはe-learningも導入。パソコンやスマートフォンを用いた問題演習やレポートチェックで皆さんの学習をサポートします。

泉キャンパス

土樋キャンパス

1年次

2年次

3年次

4年次

経済系

経済学基礎 経済学の基本的な考え方や歴史を学びます。経済学科と共通の科目も含まれます。

ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ
資本主義経済入門Ⅰ・Ⅱ

資本主義経済理論Ⅰ・Ⅱ

経済史Ⅰ・Ⅱ 経済学史Ⅰ・Ⅱ

現代の経済 さまざまな視点から経済の動向について学びます。

加齢経済論Ⅰ

加齢経済論Ⅱ 日本経済論 日本産業論 労働経済論Ⅰ・Ⅱ グローバル経済論Ⅰ・Ⅱ アジア経済論Ⅰ・Ⅱ
東北経済論 東北開発論 経済立地論 地域経済論 情報経済論 グローバル資本主義論

ゼミで学ぶ総合研究

演習は「ゼミ」とも呼ばれる、少人数の授業です。大きな教室で教員の話を聞く講義とは違って学生一人一人が主役となり、教員や他の学生と議論をすることで特定のテーマについての見識を深めることができる、大学ならではの授業です。

総合演習

演習Ⅰ

演習Ⅱ

演習Ⅲ

▶ P.5-8参照 ▶▶

ゼミや
フィールドワークで
深く学ぶ

現場で学ぶ自己の探究

フィールドワークの基礎

フィールドワーク

フィールドワークは、教室を飛び出し社会の現場で問題を考え多様な人々と交流することで共生社会について思考を深める、共生社会経済学科の目玉授業です。詳しくはP.9-10をご覧ください。

▶ P.9-10参照 ▶▶

政策 財政や社会保障など、共生社会を実現するための政策や制度を学びます。

社会保障論

財政学Ⅰ・Ⅱ 公的扶助論

社会保険論 社会福祉論 社会思想史 公共哲学
地方財政論Ⅰ・Ⅱ 福祉国家論Ⅰ・Ⅱ 地域福祉論Ⅰ・Ⅱ

社会 経済格差や差別等の現実と、解決のための取り組みを学びます。

共生社会概論 現代社会問題論
ボランティア・NPO論 ジェンダー論の基礎

文化の多様性

グローバリズムとナショナリズム 現代社会と差別 社会運動・コミュニティ論 ジェンダー論
多文化共生社会論 格差社会論Ⅰ・Ⅱ 社会開発論Ⅰ・Ⅱ 環境問題論Ⅰ・Ⅱ

共生社会系

※このページでは学科の特徴を示す専門科目のみを、一部省略して紹介しています。

※カリキュラムにはこのほかに教養教育科目、外国語科目、教職に関する科目、隣接科目などがあります。詳しくは大学案内をご覧ください。



〈理念・目的〉

経済学のエッセンスを学びながら、年代や性別、ハンディキャップ、民族・文化の異なる多様な他者への理解を深め、共に生きる発想に基づいて、新たな社会経済システムを構想し実践できるような人材の育成を目指す。

〈教育目標〉

1. 経済・政策・社会の視角から現代社会について理解を深め、新たな社会経済システムの構築に向けた提言能力や実践能力をもつ人材の育成を目指す。
2. 特に、人口減少・少子高齢化の下で、長期にわたって持続可能な社会経済システムを考える力を持つ人材の育成を目指す。
3. 自立した個人として、より望ましい人生を送るための生きる力と思考力を持つとともに、人と人との関係性のあり方にも配慮できる人材を養成することを目指す。

〈学士課程の到達目標〉

1. 建学の精神を基礎に、自己と他者の自立性を尊重し、社会において自ら果たすべき役割や責任を自覚し、他者と協働しつつ社会に貢献しようとする態度をもつこと。
2. 学ぶことの意義を理解し、その基礎となる技能(コミュニケーション能力や情報リテラシーなど)の習得を通して、「自ら考える力」を身につけること。
3. 経済学の基礎・応用知識を体系的に理解し、それを基礎に現代社会の諸問題を把握し、分析する力をもつこと。
4. 現代日本における人口減少・少子高齢化という未曾有の社会的趨勢について、経済のみならず、社会構造の様態や政策、市民活動という観点から多角的に理解し、分析できる力をもつこと。
5. 生のスタイルの多様性を承認し、各人が尊厳ある生を営むことのできる「共生社会」の意義を理解し、人口減少・少子高齢化社会に対応しうる新たな社会経済システムの構築に向けた構想力、提言能力や実践的な解決能力を身につけること。
6. 国内外の不平等や経済格差、種々の差別の問題に対する関心と洞察力をもち、公正な社会と開かれた人間関係を志向する態度を身につけること。

教員一覧

石川 真作	多文化共生社会論
郭 基煥	共生社会概論
熊沢 由美	社会保障論
黒坂 愛衣	現代社会問題論
小宮 友根	ジェンダー論
齊藤 康則	ボランティア・NPO 論
佐久間 香子	社会開発論
佐藤 滋	地方財政論
佐藤 純	経済史
佐藤 康仁	加齢経済論
谷 達彦	財政学
前田 修也	格差社会論
宮地 克典	労働経済論



経済学の基礎的な理論を学び、その基本的な考え方を身につけます。また、共生社会を考える上で重要な、経済の現状や動向についても理解を深めます。

経済史

歴史的視点からグローバリゼーションを考える

「グローバリゼーション」という言葉は1990年代頃から頻りに使用されるようになりましたが、その起源は大航海時代にまでさかのぼることができます。また、グローバリゼーションはスペイン、ポルトガル、イギリス、アメリカなどの欧米諸国によって主導されてきました。この授業では、現代のグローバリゼーションを歴史的視点から考察していく上で必要となる欧米経済史の基本的概念・用語について講義していきたいと思っています。



佐藤 純 教授
【担当講義】経済史Ⅰ・Ⅱ
【ゼミのテーマ】ボックス・ブリタニカの金融・経済的基盤を理解する

ここに魅力!

イギリス生活の経験をもつ佐藤先生。先生が訪問したヨーロッパ各地の写真をまじえて進められるゼミは、海外旅行が趣味の私は、とても魅力を感じますし、学ぶテーマに興味を抱きかけにもなっています。



八木田 浩平さん

加齢経済論

超高齢社会をどう乗り越えるか

2030年、日本は総人口の3分の1を高齢者が占める「超高齢社会」になります。超高齢社会では経済成長に大きな影響が生じるとともに社会を支えるための若い世代の負担が増え、「世代間格差」の問題がますます深刻になることが予想されます。将来世代へのツケ(負担)を先送りしている現在の社会・経済システムは持続不可能です。加齢経済論では超高齢社会における経済成長と世代間格差の問題に経済学の視点からアプローチします。



佐藤 康仁 教授
【担当講義】加齢経済論Ⅰ・Ⅱ
【ゼミのテーマ】加齢経済研究

ここがポイント!

「未来石巻」という政策コンテストに取り組み、石巻市長の前で堂々と発表できたのも、親身にサポートしてくださった佐藤先生のおかげです。ゼミメンバーの仲が良く、みんなと学ぶのが、とても楽しいゼミです。



柳澤 美玖さん・菊地 倫子さん

労働経済論

「働くこと」と向き合う

今日の日本の就業構造や大卒者のキャリアをみるかぎり、若者男女を問わず「労働」に従事することが求められています。しかし、その労働をめぐる、長時間にわたる過酷な労働や働いてもなお貧困であるといった問題などが起きています。さらに、技術の進歩によって、労働の中身も日々刻々と変化しています。労働経済論では、労働に関する様々なテーマを取り上げつつ、より良い働き方を実現・追求するための方策を考えていきます。



宮地 克典 准教授
【担当講義】労働経済論Ⅰ・Ⅱ
【ゼミのテーマ】「労働」をめぐる様々な問題と今後の課題

ここがわかりやすい!

宮地先生は、ひとつの問題に対する答えだけでなく、「なぜそうなったのか」という原因も、しっかり教えてくださいました。優しい感じで話される先生の関西弁が、授業をより楽しくしています。



進藤 悠子さん



貧困や格差、ジェンダーや民族間の差別、少子高齢化と社会保障のあり方など、社会で起きているさまざまな問題を学び、解決のための取り組みや政策、制度について考えます。

社会保障論・社会保険論

年金や医療、どのくらい知っていますか

社会保障論では、社会保障の歴史や財政などと共に、生活保護などの制度についても学びます。社会保険論では、日本の社会保障の中心である社会保険に焦点を当てます。社会保険は、共生社会を考える上で重要な政策であるだけでなく、実際に誰もが関わるものでもあるため、私たちが生活していく上でもとても重要なものです。また、フィナンシャル・プランナーを目指す人にも、ぜひ受講してほしいと思います。



熊沢 由美 教授
【担当講義】社会保障論、社会保険論
【ゼミのテーマ】少子・高齢社会における社会保障

ここが深い!

優しくても頼もしい熊沢先生のもとで学んでいるのは、私たちに深い社会問題。全ゼミ生の意見をもとに課題図書を決めて、ペアでその内容を掘り下げます。身近なテーマだからこそ、考える力が身につきます。



西條 夏美さん・鈴木 遊さん

ナショナリズム論

「ネーションへの愛着」は何をもたらすのか

自らが所属するネーション（国民／民族、場合によっては国家）を尊重する意識や感情、行動を示すものとしてのナショナリズムは、しばしば人の激しい情動を動員し、ときに排外的な行動を誘発することがある。なぜだろう。グローバル化の時代においても勢いが衰えない執拗さは何故のものだろう。自分の民族を愛することは「当たり前」だろうか。「民族」は太古からあり、永遠に続くもの、だろうか。講義やゼミでは、ナショナリズムをめぐる諸現象とその由来、未来について考えることを一つの柱としています。



郭 基煥 教授
【担当講義】共生社会概論、グローバリズムとナショナリズム
【ゼミのテーマ】現代社会における社会問題／文化現象



ここが充実！

郭先生のお話から多くのことを学び、「知ること」が楽しくなりました。思考する力が豊かになったとも感じています。そして花見、合宿、学祭出店など、イベントも盛りだくさん。充実した学生生活を送っています。中村侑樹さん

多文化共生社会論

外国人との共生をどう実現するか

近年、日本にも外国出身の住民や、外国人の観光客が目立つようになってきました。外国人「労働者」や外国人「観光客」の存在は、日本経済を支える重要なファクターになっています。しかし、そうした人々は、「労働者」や「観光客」である以前にそれぞれの言葉や宗教、生活習慣、つまり「文化」を持った人間です。この授業では様々な国の事例を参照しながら、様々な文化を持った人々と共生できる社会のあり方を考えます。



石川 真作 教授
【担当講義】多文化共生社会論、文化の多様性
【ゼミのテーマ】多文化共生をめぐる問題群を考察する



ここに発見がある！

日本に在留する外国人に関する討論や、課外活動での国際交流を通して、自分の中の価値観や世界が広がるような体験ができます。強面だけど(?) 気さくな石川先生は、ゼミ生の“第2のお父さん”のような存在です。渡邊 悠太さん

社会開発論

「他人事」を「自分事」として世界と向き合おう

わたしはこれまで、ボルネオ島（マレーシア）の熱帯雨林で暮らしてきた人びとの生活から、人と自然のかかわり、開発と環境問題について研究してきました。日本にとって熱帯雨林はどこか遠くの「別世界」かもしれませんが、日本の日常生活は熱帯雨林からの恵みと切り離すことはできません。講義では、日本の日常の延長線上にある「別世界」にある諸問題を事例に、全ての人が持続可能で豊かに生きることができる社会について考えていきます。



佐久間 香子 講師
【担当講義】社会開発論
【ゼミのテーマ】「発展途上国」から考える現代社会／環境と開発／資源開発問題



ここに重みがある！

「世界ではこういうことが起きている」だけで終わらせず、自分たちは何ができるのかを考え、学生同士で意見交換をしています。先生が見聞きしてきたことが随所に散りばめられ、重みのある学びができています。望月 薫さん

ボランティア・NPO 論

誰が、何のために活動するのか

今から25年前の阪神・淡路大震災で注目されたボランティア。その取り組みは、東日本大震災をきっかけとして、災害直後のガレキ拾いから、農業・漁業の支援などへも拡がりを見せています。講義では、それに先立つ水俣病の被害者支援なども振り返りながら、戦後日本におけるボランティアの取り組みについて概説する一方、現在、非営利組織が直面しつつある休眠預金の利活用、社会的インパクト評価などの問題についても説明します。



齊藤 康則 准教授
【担当講義】ボランティア・NPO論
【ゼミのテーマ】東日本大震災以降の市民社会と公共性のゆくえを考える



ここが楽しい！

「言葉だけは知っている」という概念や組織などを、実際に聞き取り調査などを通して理解を深めるゼミです。齊藤先生は、とてもおもしろい先生で、先生の体験談や雑談を待っている学生も多いのです。伊藤 舜祐さん・小池 茉里奈さん

差別問題論

当事者の声から考える

わたしは、ハンセン病問題および部落差別問題を中心に、日本の社会問題や差別問題の研究をしています。マイノリティ当事者たちの語りは、わたしたちに大きな気づきを与えてくれます。社会的多数者（マジョリティ）の立場にある者の日常からは見えにくい、社会的抑圧や排除の存在。そのなかを生き抜いてきた人々の、豊かな生きざま。当事者存在のさまざまなありよう……。講義では、当事者の生との〈出会い〉を大事にしたいと考えています。



黒坂 愛衣 准教授
【担当講義】現代社会問題論、現代社会と差別
【ゼミのテーマ】日本の社会問題／差別問題—フィールドワークし、探求する



ここが刺激的！

黒坂先生は、自分で見聞きし、感じることを大切にしています。それを率直に言葉にして伝えられる環境もあります。さらに、さまざまな問題に取り組むメンバーがいるので、とても良い刺激を受けています。平井 百香さん

ジェンダー論

ジェンダー平等な社会をつくる

ジェンダー論は、私たち人間が「性別」を持つ存在であるということがどのように「社会的」なことからであるか、またそのことがどのようにさまざまな不平等の問題とかかわっているかを深く学ぶ学問です。労働、恋愛、結婚、家族、教育、マスメディア、漫画やアニメなど身近な現象を通して、性と性別にかかわる問題が私たち全員の生活と深くかかわっていることを考えます。



小宮 友根 准教授
【担当講義】ジェンダー論、ジェンダー論の基礎
【ゼミのテーマ】討論で学ぶジェンダー論



ここに気がついた！

文献を読んで「問い」をたて、ディスカッションをすることで考えをまとめていきます。実は「答え」同様、「問い」を見つけるのが難しいことに、やってみて気がつきました。これは新たな発見です。齋藤 葵さん

地方財政論

不平等の現状を理解し、問題解決に立ち向かう

私のゼミではこれまで、所得格差・貧困問題をテーマに活動に取り組んできました。より具体的には、教育と進学格差、若年者雇用とブラック企業、震災復興とコミュニティ再生など、多岐に渡ります。また、例年、慶應義塾大学、埼玉大学、帝京大学、桃山学院大学、下関市立大学、弘前大学と合同でゼミ合宿を開き、大学を越えた交流・議論の場も作ってきました。社会問題の解決に意欲のある学生を待っています。



佐藤 滋 准教授
【担当講義】地方財政論Ⅰ・Ⅱ
【ゼミのテーマ】格差・貧困問題の現在と福祉国家のゆくえ



ここに納得！

学生同士で意見を発表し合う機会が多く、意見交換しながら理解を深めることができます。「社会問題を解決し、人々の幸福に貢献したい」と思う学生にとって、最適な学びの場であると思います。千葉 彩夏さん

財政学

持続可能な社会を支える財政のあり方を考える

財政学では政府の経済活動について学びます。保育、教育、社会保障、景気対策など、政府は税金を財源に様々な政策を行います。税金は何のためにどれくらい使うべきでしょうか、誰がどれくらい負担するべきでしょうか。日本の財政は巨額の借金を抱えていますが、財政の健全化はどのように実現できるのでしょうか。講義やゼミでは財政学の基礎的な理論と日本財政の制度・現状を学び、持続可能な社会を支える財政のあり方について考えます。



谷 達彦 准教授
【担当講義】財政学Ⅰ・Ⅱ
【ゼミのテーマ】現代日本の財政問題を考える



ここが刺激！

学生が中心となり、良い意味で自由に研究を進めています。それができるのは、谷先生が学生を見守り、多角的なアドバイスをくださるから。工場見学や他大学との合宿ゼミなど、大学外での活動も刺激になっています。佐川 彬さん



社会を複眼的に捉えるフィールドワーク

フィールドワークは共生社会経済学科の目玉授業のひとつです。2年次に「フィールドワークの基礎」で6つの実習の概要を学び、3年次にその中から最大2つまで選んで履修できます。実習は大きくわけて調査系と体験系の2種類があり、調査系では被災地復興に携わる非営利組織の人たちや、マイノリティの人たちの声を聞き取ります。体験系では病院や高齢者施設、子育て支援施設などで実際に現場の労働を体験、また韓国訪問を通じて日韓関係についての理解を深めます。さまざまに立場の異なる人たちとの交流は、教室で学んだ知識を、社会の現場で使える、血の通ったものにしてくれるでしょう。

※フィールドワークの内容は変更されることがあります。

調査系 NPO (非営利組織) の社会的意義を学ぶ

特定非営利活動促進法の施行(1998年)から15年以上が経過する中、NPO・一般社団法人などの非営利組織は、私たちの日常生活の中でも多く見られるようになりました。とりわけ東日本大震災以降、宮城県では震災復興、被災者支援に取り組む団体も増加しつつあります。「大震災後の非営利組織のあり方に関する調査」をテーマとするこのフィールドワークでは、地域福祉・まちづくり・環境保護・教育支援などの分野において、実際に活動を担っている人々から話を伺うことを通じて、それぞれの団体が設立された経緯や歴史を知るだけでなく、非営利組織が現在直面している人材難・資金難などの組織課題を具体的に明らかにすることを主眼としています。



▲農業再生に取り組むNPOの代表から話を聞く

調査系 当事者の語りから社会問題を学ぶ

社会問題や差別問題の現場を訪問し、社会的弱者や社会的少数者の立場にある人びとがどのような人生を歩んできたのか、一人ひとりのライフストーリーをていねいにうかがい記録する「聞き取り」に挑戦します(福島県内の仮設住宅/関東地方の被差別部落/東北地方の国立ハンセン病療養所、いずれかを予定)。当事者との出逢いをとおして、当該の問題への理解を深めるとともに、わたしたちの社会が多様な人びとで構成されていることへの感性と、社会問題や差別問題を自分自身に結び付けて考えていく力を涵養します。自分とは異なる背景をもつ他者の語りを《共感的に理解する》ことが重要です。そのおもしろさ、奥深さを、ぜひ知ってください。



▲栃木の被差別部落でのライフストーリー聞き取り

調査系 多文化共生を学ぶ

このコースでは、様々な多文化共生の現場を訪ねて「参与観察」を中心とした調査を行います。参与観察とは自分自身で体験しながら学ぶ調査のやり方です。

外国出身の住民が増加してきたのを受けて、異なった文化を持った人々との共生を目指す「多文化共生」への取り組みが各地で行われるようになっていきました。こうした取り組みについて、宮城県周辺で行われているNPOなどによる外国人支援の現場に参加します。また、関東あるいは中部の外国人労働者の多い地域に出向き、イベントに参加するなどして、現地の外国人住民、NPO関係者や学生と交流しつつ、様々な取り組みを学ぶ機会を持ちます。



▲イスラム教のモスクでワークショップ

Field Work 合同報告会

毎年、年度の終わりには「フィールドワーク合同報告会」が開催されます。それぞれのフィールドワークを受講した学生たちが、自分たちの活動内容とそこで学んだことを大勢の学生の前で発表する、授業の集大成の場です。学生たちは実習を振り返って報告書を作ったり、スライドを作成したりしながら、自分たちが何を学ぶことができたのかをあらためて整理して他の学生に伝えます。また、他の学生の報告を聞くことで、自分が足を運ばなかった多様な「現場」への想像力も養われます。現場で身につけた見識を披露する学生たちの表情はとても充実感にあふれています。みなさんも共生社会経済学科に入ったら、ぜひフィールドワークの醍醐味を感じてみてください。



体験系 熱帯雨林体験から私たちの暮らしを考える

このコースではマレーシアを訪問します。マレーシアと聞いて、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか?暑い、イスラーム、オランウータン、あるいは、特に何も思い浮かばない、という人もいるでしょう。赤道直下に位置するこの国は、南シナ海をはさんで西側のマレー半島と、東側のボルネオ島があります。気候、政治、社会に違いがありますが、ともに古くから日本とのかかわりがある地域です。このコースでは主に東側にあるサラワク州の熱帯雨林とそこに暮らす人びとの生活を体験します。この体験を通して、熱帯アジアの自然や人、それらを取りまく事象について、日本で暮らす自分たちのことと関連付けて考察する視点と感性を身につけることを目的としています。



▲家族で陸稲の収穫をする様子

体験系 子育ての社会的支援の意義を学ぶ

「夫が働いてお金を稼ぎ、妻は家庭で子育てをする」、そんな社会は過去のものとなりつつあります。性別に関わりなく働き、また育児にも携わることができるようにすることは、自由で平等な社会を作り、少子化の困難を乗り越えるためのきわめて重要な課題です。他方で、特に女性が子育てに携わりながら働く環境はまだ十分に整っているとは言えません。そうした中で、子育ての社会的支援の意義はますます大きくなっています。このコースでは、仙台市内の児童館と子育て支援施設で実習をおこなうことで、子育て支援の意義を学びます。子どもたちはもちろん、職員や保護者の方々との交流を通じて、子育ての現場にどんな苦労や努力、工夫があるのかについて理解を深めましょう。



▲児童館で子どもたちと

体験系 施設実習を通して「福祉・医療の現場」を体験する

高齢者施設または病院で、職場体験またはボランティアを体験します。高齢者施設では、レクリエーションなどを通して利用者と交流します。病院では、総合案内や院内図書館、小児病棟での活動などを体験します。また、車いす体験や高齢者疑似体験、妊婦疑似体験も予定しています。

現場を体験することで、福祉・医療について理解を深めます。施設で出会う人たちとの交流を通して、自分とは年齢や健康状態が異なる人たちへの理解も深めます。また、施設へ行くことは社会に出ることでもあります。社会人として何が必要か、考える良い機会にもなります。



▲高齢者施設でのレクリエーションの様子



さまざまな学びと活動

格差社会論

国内外の格差を解消するためには

オムニバス形式となっていて、複数の教員が担当する講義です。格差社会論では、国内外のさまざまな格差問題を取り上げます。講義内容をもとにした書籍も発行されていて、格差問題について多面的に、深く学ぶことができます。2021年度は、雇用格差、健康格差、世代間格差、アメリカ、中国、および韓国における格差などがテーマです。



特殊講義

さまざまな分野で活躍されている方々を講師としてお招きします。いま何がおきているのか、何が必要とされているのか。さまざまな分野の「現在」にふれてください。2021年度は「障害者福祉の基礎」と「社会における公衆衛生」の二つを予定しています。

皆さん、こんにちは。特殊講義I「障害者福祉の基礎」を担当しております伊藤です。私は生まれつきの希少難病により車いす生活を送っています。足が不自由なために外出困難であった経験から、外出のすることの喜びを多くの方へ伝えるためNPO活動をライフワークに、また、精神に障害がある方をサポートする仕事をしております。



伊藤 清市 先生

2016年4月から障害者差別解消法という法律がはじまりました。本大学でも障害がある学生が当然の権利として勉学に励めるよう、様々な施策に取り組んでおります。障害の範囲が拡大し、一目では障害があると認識できない人も増えている現在、皆さんの友人、知人等身近なところに障害がある人がいるというよい時代になりました。

皆さんに期待することは、社会の中にあるバリアに対する感受性を高め、自分の言葉で意見表明できること。それにより共感性が磨かれ共生社会を創る礎になるでしょう。

ボランティア活動

人とふれあうことで、より地域に密着した支援を。

ボランティアステーションスタッフ
共生社会経済学科4年 村上 ひなのさん

東日本大震災で私自身も被災し、たくさんの方々に支援をいただいたり、ボランティアの方々に助けていただきました。その経験から、「私も困っている人の助けになることができれば」という思いを抱くようになり、東北学院大学災害ボランティアステーションに入りました。現在は気仙沼や雄勝、牡鹿、山元、七ヶ浜などでの活動に参加しています。

ボランティアステーションでの活動を通して強く感じるのは、震災から10年近くが経過しようとしている現在も、ボランティアの手を必要としている人がいるということです。その一方で、被災地の方々の前を向いて進んでいる姿も印象に残ります。

また、ボランティア活動をして良かったと思うのは、各地域で生きる方々の“温かさ”を感じられたことです。さらに、その方々との交流を通して、地域の魅力も知ることができました。そして何と云っても「ありがとうございます」と声をかけていただけるのが、とてもうれしいですし、やりがいを感じます。活動を継続する中で、人と人とのつながりが構築できるのも、やって良かったと思う点です。



今後は、これまでのボランティア活動で実際に足を運んで知った地域の魅力を発信して、少しでもそこに住む方々のプラスになることができれば良いと思っています。このような機会を得られたのも、経済について学べるだけでなく、社会保障やボランティアといった分野も学べる共生社会経済学科ならではのことだと思います。現代社会について理解を深めながら、ボランティア活動も続けて、実りある大学生活にしていきたいです。

共生社会経済学科への期待の声

ボランティア活動の中で、問題発見・解決能力を高める。

ぼくたち POSSE は、現代の労働・貧困問題を、若者自身で改善していく活動をしています。労働相談・生活相談を受け、現場の実態調査を行い、問題解決のための政策提言を行っています。ブラック企業問題にいち早く取り組み、日々の労働相談から現場の実態を明らかにし、社会に発信してきました。これらの取り組みは、行政がブラック企業対策を実施するなど、社会を動かす結果を生んでいます。

現在では、ブラック企業問題の他、ブラックバイトや奨学金、生活保護の問題に取り組んでいます。相談活動では労働法をはじめ各法律を駆使し、違法を是正させ権利の実現を支援します。現場に参加することで、大学生が生きた知識を実践的に学ぶ機会となります。社会をつくる担い手が増えていくことを期待しています。



NPO 法人 POSSE 仙台支部代表

ブラックバイトユニオン 相談員

森 進生さん

Profile

1989年生まれ。仙台 POSSE 代表。東日本大震災以降、仙台で被災者支援に取り組んできた。現在では労働相談や生活相談を通じて、労働問題・貧困問題を中心に取り組んでいる。

他者とともに生きる体験…そこに大切な“気づき”があります。

学生時代のボランティア体験は、自分を変えるととてもいいチャンスです。実際に車椅子で歩いてみると違う景色・見えないものが見えたり、お年寄りの介助で相手の気持ちを理解する、あるいは理解できない自分を発見する…年齢や立場の異なる人と、具体的にふれあう体験にこそ、人として大切な“気づき”があります。ボランティア活動に参加すると「自分が必要とされている」と実感できる瞬間が必ずあります。それが、生きる自信となり、他者とのふれあいを自分の鏡と考えることで、新しい、色々な自分を見つけられるはず。私は、ボランティアの場に広がる「ありがとう」の輪の中にこそ、次の時代に必要な活動が芽吹くと信じています。



仙台市太白区 レクリエーション協会

会長

村田 耕造さん

Profile

教員として障がい者教育・福祉の仕事に長く携わる。現在ボランティア・アドバイザーとして活躍中で、レクリエーション活動と、五感で自然を体験する「シェアリングネイチャー」のエキスパートでもある。



学生のライフスタイル

泉
キャンパス

菅原 有咲さん

共生社会経済学科 2年
【宮城県/東北高等学校出身】

自分が決めたテーマで討論できるのが魅力。
部活動の陸上では全国大会出場が目標です。



格差やジェンダー問題などに興味があり、この学科なら多様な人たちへの理解を深め、共感を磨けるのではないかと思います、選択しました。現在は、女性差別や両立支援によるジェンダー問題を取り上げるゼミの活動に力を入れています。自分で考えた問いに関して、ゼミの仲間と意見を交換できるので、思考力やコミュニケーション能力の向上が図られていると感じます。また、私は陸上競技部に所属しており、全国大会出場という大きな目標に向かい、練習に取り組んでいます。学業も部活動も、目標を定めて行動計画を立て、実践を積み重ねることで、短所を長所に変え、長所はより強化しようと努力を続ける毎日です。

私の時間割 [2年次前期]

	月	火	水	木	金	土
1	資本主義社会入門I	日本国憲法	—	体育講義	フィールドワークの基礎	—
2	英語II A	加齢経済論	—	—	—	全
3	東北地域論	財政学I	法学	フィットネス(スポーツ実習)	健康の科学	休
4	メディアリテラシー	演習I	地域の課題	—	現代の政治	—
5	—	—	—	—	—	—

菅原 有咲さんの主な1日

- 8:00 **起床・朝食**
オンデマンドの授業が多いのですが、決まった時間に起床します。
- 9:00 **講義**
オンデマンド授業。重要点を聞き直しながら取り組んでいます。
- 12:30 **昼食**
自宅で昼食。のんびり過ごします。
- 13:00 **講義**
部活動に行く時間まで授業を受けます。
- 14:30 **学校に向かう**
自宅から学校まで約1時間30分ほどかかるので、早めに出発。
- 16:30 **部活動**
目標に向かって、日々の練習に取り組んでいます。
- 20:30 **帰宅・帰宅後**
帰宅する時間は比較的遅いですが、しっかりと夕食をとります。



土樋
キャンパス

丹野 颯一郎さん

共生社会経済学科 3年
【山形県/上山明新館高等学校出身】

ときには失敗しても挑戦を続け、
経験から多くのことを学んでいます。



共生社会経済学科を選択したのは、演習やフィールドワークというアクティブな授業を通して、私が興味をもっている少子高齢化問題や、子育てに関する問題について学ぶことができることを知ったからです。そしていま、希望通りの実践を伴う授業の中で、好きなテーマを設定し、研究を続けています。そんな学生生活の中で大切にしているのは、常に挑戦する気持ちを忘れないということ。学生のうちにさまざまなことに挑戦し、ときには失敗から学んで成長したいと思っています。いまは新型コロナウイルス感染症によって、例年とは異なる行動が求められていますが、変化していく環境に柔軟に対応しながら、大学生活をより充実させたいと思います。

丹野 颯一郎さんの主な1日

- 7:00 **起床**
朝食はご飯派。しっかり食べて、身支度を整えます。
- 8:30 **勉強**
公務員を目指しているので、前日の勉強の復習を朝のうちにやってから家を出ます。
- 12:00 **昼食**
友だちと一緒に学食へ。チキン竜田丼と塩から揚げ丼がオススメです。
- 13:00 **授業**
興味のあるテーマ「少子化」について、教授のもとで知識を深めます。
- 18:00 **アルバイト**
帰宅後、近所の薬局でアルバイト。白衣に憧れたのですが、結局着られませんでした。
- 23:00 **勉強**
その日の復習および公務員の勉強をします。コツコツが大切です。
- 1:00 **就寝**
疲れた日は、早めに就寝することを心がけています。



私の時間割 [3年次後期]

	月	火	水	木	金	土
1	—	—	—	—	—	—
2	全	—	労働経済論II	全	—	フィールドワークI c
3	休	経済史II	—	休	演習II	—
4	—	アジア経済論II	社会保険論	—	—	—
5	—	格差社会論II	—	—	—	—



活躍する卒業生たち

詳しくはWebで
ご覧ください。



共生社会経済学科

検索



「まずやってみる」の精神と
親しみやすさで仕事にまい進。

車内での切符販売や放送でのご案内などを行っています。お客さまと直接ふれあう仕事なので、話しかけやすい車掌であることを心がけています。大学時代、ゼミなどを通じて養った「まずやってみる」という精神をいまの仕事にも活かし、親しみのある鉄道員を目指していきます。

佐藤 高志 さん



東日本旅客鉄道(株)
勤務

運輸・交通業

お客さまの立場でご提案できる
「ハウジングアドバイザー」に。

総合住宅展示場に来られたお客さまをご案内しながらニーズを引き出し、ご要望に合った土地やプランの提案、お見積りの提示までを行っています。大学では、相手の立場で物事を考えることの大切さを学びました。この学びを生かし、お客さまの立場でご提案できる、本当の意味での「ハウジングアドバイザー」として、お客さまに接しています。

臼井 里那 さん



株式会社 桧家住宅
勤務

不動産業

異なる文化や価値観をもつ人とも、
理解し合う姿勢が活きています。

「持続可能な開発」をテーマに、開発や開発政策の効果が正しいかどうかを判断できるプロフェッショナルになることを目指して大学院で学んでいます。この研究科には留学生が多数在籍しているので、学部において学んだ、文化あるいは宗教の異なる他者への理解について日常の様々な場面で活かすことができています。

神 正光 さん



名古屋大学大学院
国際開発研究科

大学院

大学で培った思いやりの気持ちが、
仕事に活かされています。

MR(医薬情報担当者)として私が向き合っているのは、医療従事者と患者様、そしてそのご家族です。その方々が求めているものを探り、不安や痛みにフォーカスを当てるとき、この学科で培った広い視野と相手を思いやる気持ちが活かされていると感じます。これからも相手の視点で考え、地域医療の発展に携わっていきます。

村山 由希也 さん



アッヴィ合同会社
勤務

製薬業

大学で磨いた共感力を活かし、
相手の立場に立った仕事を。

住民の暮らしや健康、福祉に関する施策、環境・まちづくりを行う仕事を行っています。大学では共感力を磨くフィールドワークやゼミを通して、自分とは異なる生活環境を体験。相手の立場になってものごとを捉えることの重要性を学びました。この学びを市民の方々の悩みや要望を共有することに活かしていきます。

芳賀 優香 さん



山形県寒河江市役所
勤務

公務員

課題を多角的に見つめて、
安心して暮らせる地域づくりを。

この学科では、多角的な視点を持つことの大切さを学び、そのことによって普段の生活では気づかなかった「現実」を知ることができました。その学びを仕事に活かして、さまざまな視点から地域が抱える課題と向き合い、考えていくことで解決策を見つけて、地域住民の方々が安心して暮らせる地域づくりの力になりたいと思います。

佐藤 沙耶 さん



社会福祉法人
大崎市社会福祉協議会
勤務

社会福祉事業

地域の皆さんの思いに寄り添い、
課題解決のお手伝いを。

町役場に勤務し、商工観光交流課と緊急経済対策室の仕事を兼務しています。学生時代、ゼミで津波の被害を受けた方々にお話を聞くなどの体験を通して、いま起きていることが他人ごとではないと思えるようになりました。そのときの気持ちを忘れずに、地域の皆さんが抱える課題や不安に寄り添って、解決への手伝いができればと考えています。

渡辺 皓貴 さん



三種町役場
勤務

公務員

コミュニケーション力を発揮し、
銀行の固いイメージを払拭。

現在、私は金融機関や官公庁との現金の受払や損傷通貨の引換事務等を行っています。日本銀行は「固そうで入りづらい」イメージがあるようです。そこで大学で培ったコミュニケーション力を活かし、お客さまの気持ちが、少しでも和らぐよう心がけています。これからも国民の皆さまが安心して暮らせるよう、日本経済を支えていきたいです。

高橋 優大 さん



日本銀行勤務

公的金融機関